

教育プログラム・コースの概要

大学名等	熊本大学大学院医学教育部医学専攻						
教育プログラム・コース名	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース						
対象者	熊本大学大学院医学教育部大学院生、一般医師、後期研修医 等						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・リサーチ・マインドを持ち、かつグローバルな視点で研究を推進することができるがん専門医療人。 ・研修医からシームレスで大学院に進学することにより、研修早期のより若い年代で臨床・研究のバランスのとれたがん専門医療人 ・がんにおける分子学的変化（特にゲノム情報）について習熟し、その結果を個人のがん治療に応用することができるがん専門医療人 ・消化器における希少がん（例えばGastrointestinal Stromal Tumor[GIST]など）の症例を多く経験し、その診断・治療 ・分子生物学的特徴に習熟したがん専門医療人 						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・必修科目14単位以上、選択必修（臨床指導科目）8単位以上、選択科目8単位以上、計30単位以上を履修すること。 ・e-learningシステムにて一部の授業を受講する。 						
履修科目等	<p><必修科目> 講義科目（2単位）、実践Ⅰ（10単位） 集学的がん治療学・緩和ケア学実習（初級）（2単位）</p> <p><選択必修（臨床指導科目）> がん外科療法学実践Ⅲ、がん放射線治療学実践Ⅲ、緩和ケア学実践Ⅲ、がん化学療法学実践Ⅲ、その他2科目（各科目8単位）</p> <p><選択科目> 腫瘍先端学理論Ⅰ（2単位）のみ必ず選択。 がん治療学理論（2単位）、腫瘍先端学理論Ⅱ（2単位）、その他多数。）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> ・研修医・大学院一体型消化器がん専門博士養成コースは、初期臨床研修医として研修に従事しながら、社会人大学院学生として研究に従事することができるため、研修早期からの臨床・研究のバランスのとれたがん専門医育成が可能となる。 ・がんにおける分子学的変化（特にゲノム情報）についての勉強会、セミナーを定期的を開催し、リサーチマインドを涵養する。また、それを臨床応用につなげることを目標とし、最終的にはゲノム医療従事者の育成を目指す。 ・多くの消化器における希少がん(GISTなど)の症例数を確保することができるため、それらの臨床データ、サンプルを用いて、希少がんに関して網羅的な検証を行うことが可能である。 ・海外のトップクラスの研究機関との国際研究ネットワークに参加することにより、グローバルな視野をもつ研究者の育成を目指す。 						
指導体制	がんに関わる専門資格を有する研究指導教員・研究指導補助教員を研究内容、専攻分野に応じて配置し、個々の大学院生の研究に即した指導体制を整備している。さらに、海外のトップクラスの研究機関との国際研究ネットワークが構築されており、国際共同研究を推進することも可能である。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本教育プログラムで研修することで、より高度ながん診療が実践でき、がんに関する多くの専門資格を取得することができる。また、消化器癌（食道癌、胃癌、大腸癌、肝臓癌、膵癌など）に関する様々な分子学的変化に関する検証を行い、多くの学会、論文で報告することができ、キャリアパスに繋がる。さらに、国際研究ネットワークに参加することにより、将来的に海外研究機関への留学なども可能となる。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	3	10	10	10	10	43
							0
	計	3	10	10	10	10	43